

天然記念物イタセンパラが 生息できるワンド環境の維持管理

国土交通省 近畿地方整備局
淀川河川事務所 河川環境課

項目	諸元
流域面積	8,240km ²
幹線流路延長	75km
流域内人口	約1,100万人



**城北ワンド群
(淀川12k付近)**

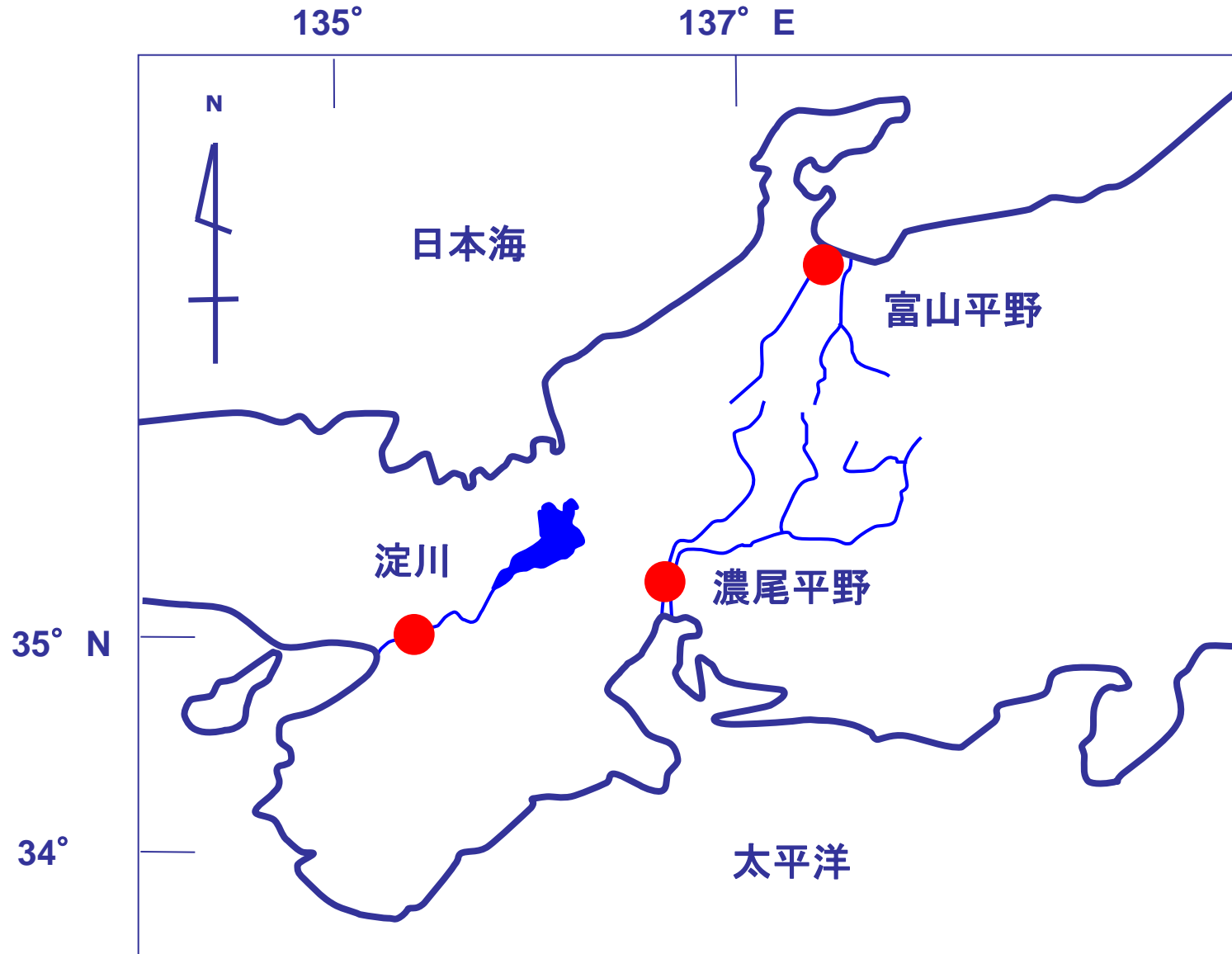
イタセンパラについて

- 日本固有の淡水魚でタナゴのなかま
- 9～11月の産卵期にイシガイ科の二枚貝に産卵し、5月頃稚魚が貝から泳出
- 文化庁：天然記念物(文化財保護法)
- 環境省：絶滅危惧IA類
国内希少野生動物種(種の保存法)



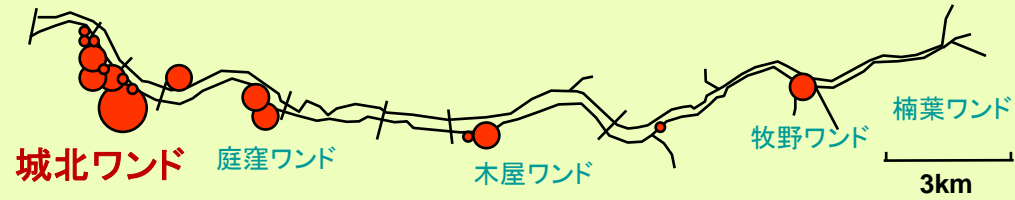


イタセンパラの分布

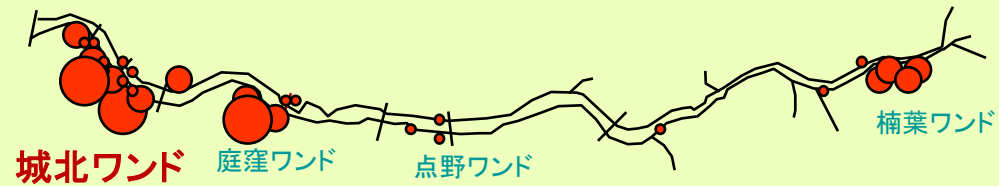


淀川本川におけるイタセンパラの分布

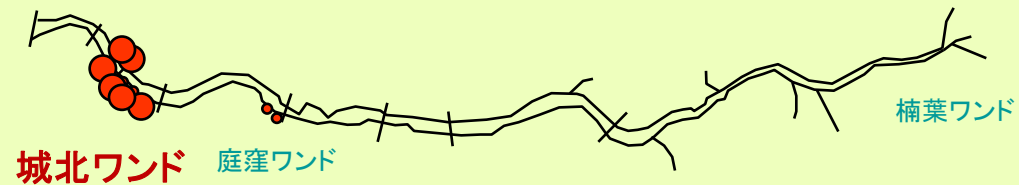
1971～72年
(昭和46～47年)



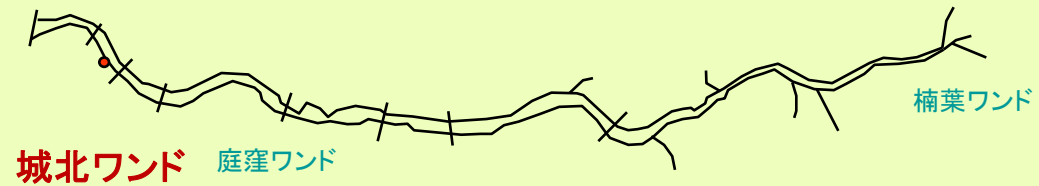
1984年
(昭和59年)



1993年
(平成5年)



2004年
(平成16年)



● 1-9尾 ● 10-99尾 ● 100尾以上

平成17年を最後に確認されなくなり野生絶滅した

イタセンパラがいなくなった原因

- 平成18年度に城北ワンド31号で干し上げを実施
- ブルーギルをはじめとする外来魚が非常に多く確認された
- ウォーターレタスなど外来種の水草が多く繁茂していた



イタセンパラ野生復帰プロジェクト

国土交通省 淀川河川事務所

- ワンド倍増計画
- モニタリング
- 外来魚駆除

淀川イタセンパラ検討会

大阪府立 環境農林水産総合研究所

- 繁殖生態の解明、人工繁殖
- 外来生物駆除技術開発
- 市民参加型
保全活動モデル構築

淀川水系イタセンパラ 保全市民ネットワーク (イタセンネット)

- 魚類調査、外来魚駆除
- 河川清掃
- 普及啓発

環境省：城北わんど イタセンパラ協議会

- 密漁パトロール
- ヌートリア駆除

外来生物駆除作戦（水生生物センター）

期間：平成21年12月～24年3月

場所：城北ワンドNo.34,35,36を重点化

人員：平日10名

方法：籠モンドリ、人工産卵床、藻場トラップによる外来魚の駆除
外来植物の駆除



平成21年12月
ナガエツルノゲイトウ



イタセンパラ野生復帰プロジェクト

作業開始3ヶ月後



イタセンパラ野生復帰への取り組み

- 淀川河川事務所と大阪府立環境農林水産総合研究所は、外来魚駆除や密漁防止などの保全体制が整ったと判断し、城北ワンドにて公開放流に踏み切った
- 平成25年10月「淀川城北ワンド群イタセンパラ放流式」を開催(主催:淀川河川事務所、大阪府立環境農林水産総合研究所) 関係機関、地元小中学生ら約160人が参加

イタセンパラ放流式(平成25年10月10日)

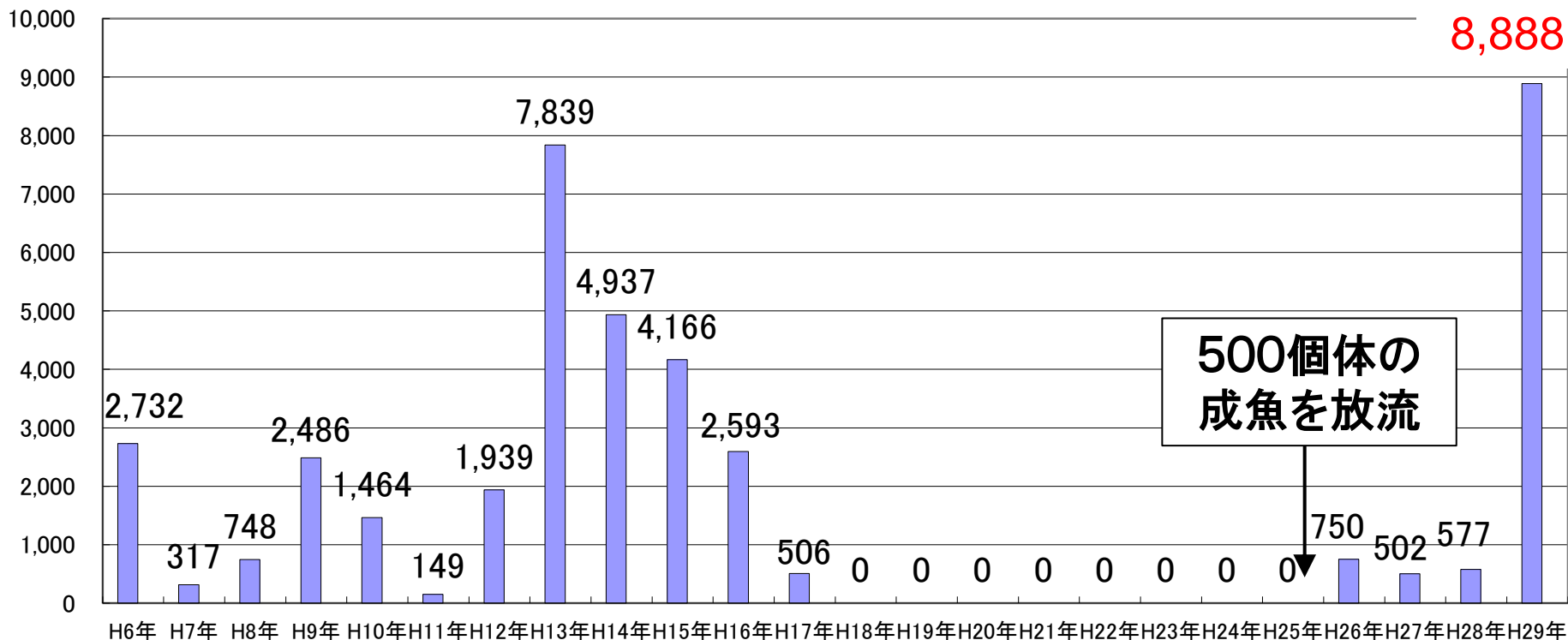


放流後の個体数の推移

- 平成25年度のイタセンパラ放流後、稚魚数は500匹～700匹程度で推移
- 平成29年度は、調査開始以来最多の**8,888**匹を確認！！

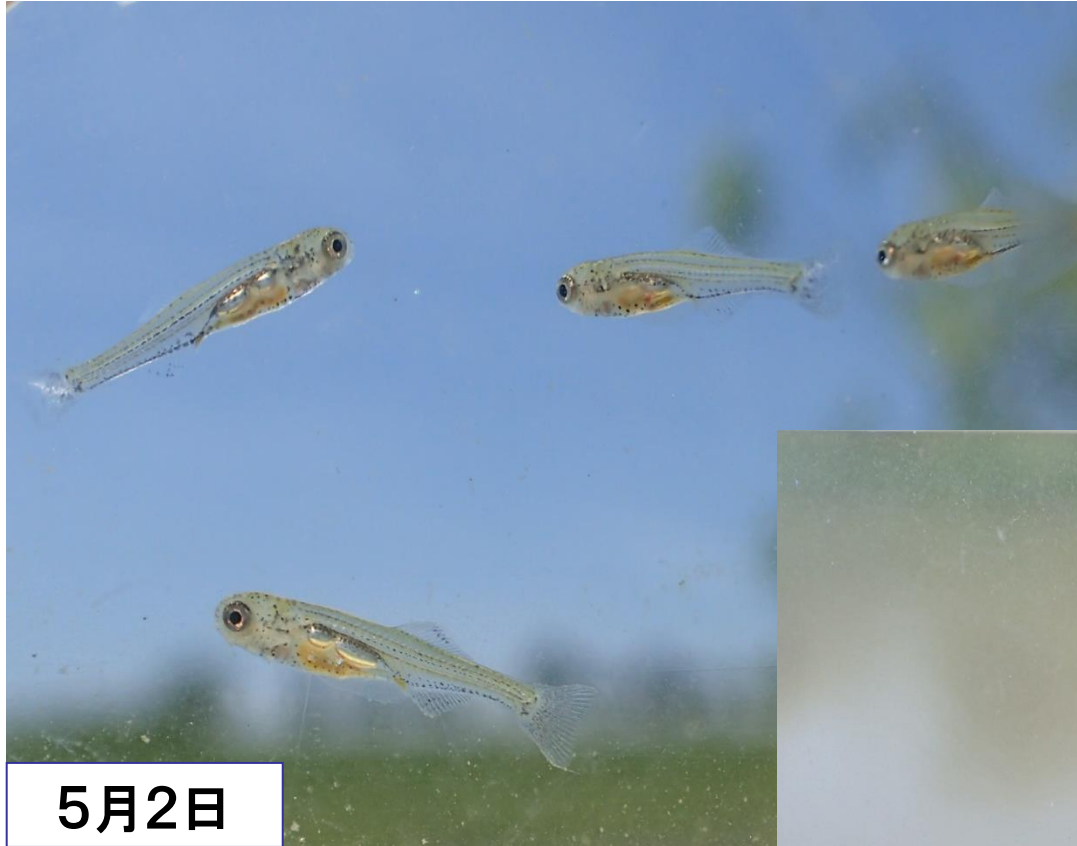
個体数

城北地区全ワンドの合計個体数

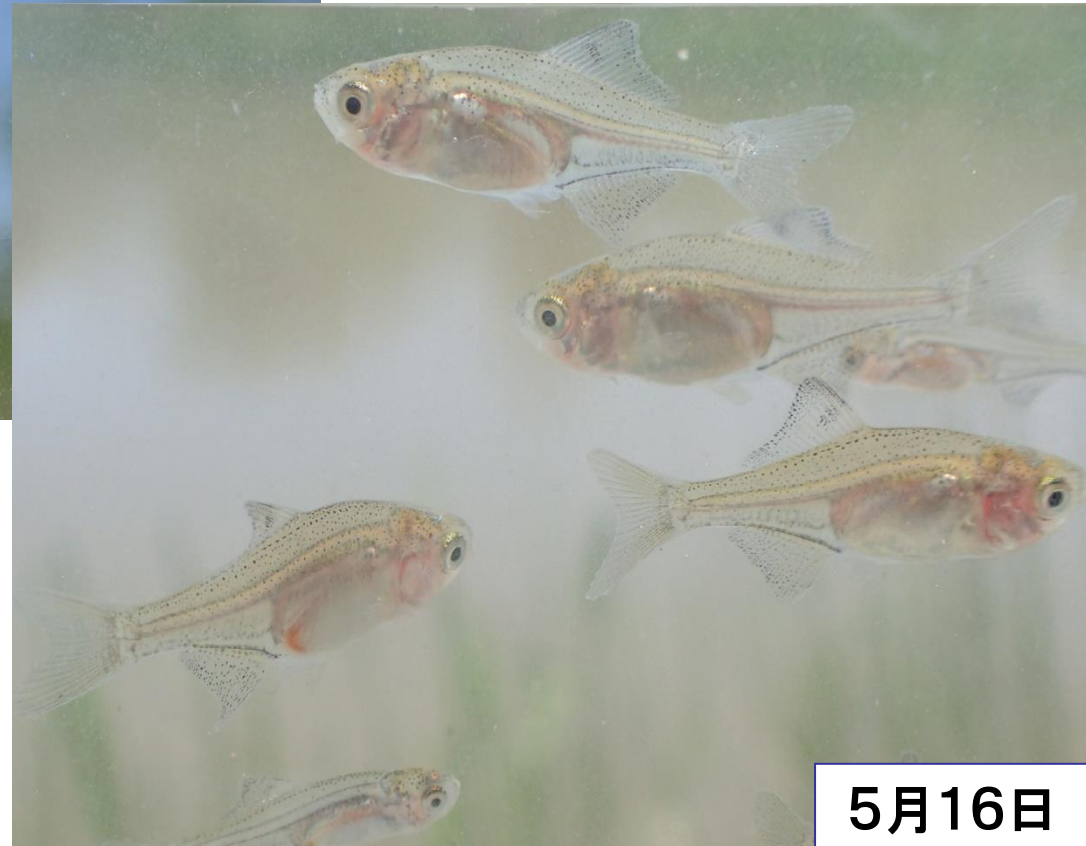


これまでの実施してきた関係機関・地域ネットワークとの
取り組みの相乗効果と思われる

今年確認されたイタセンパラ稚魚

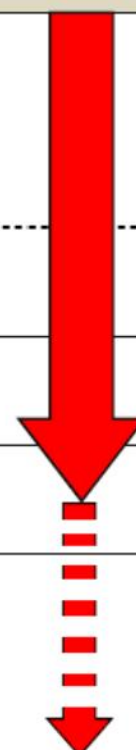


5月2日



5月16日

淀川におけるイタセンパラの野生復帰事業の目標と指標

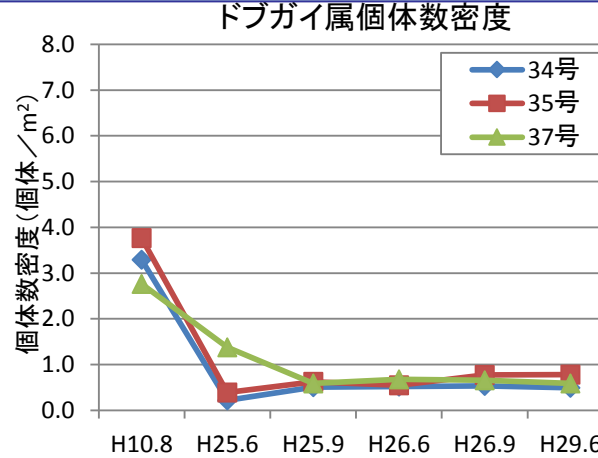
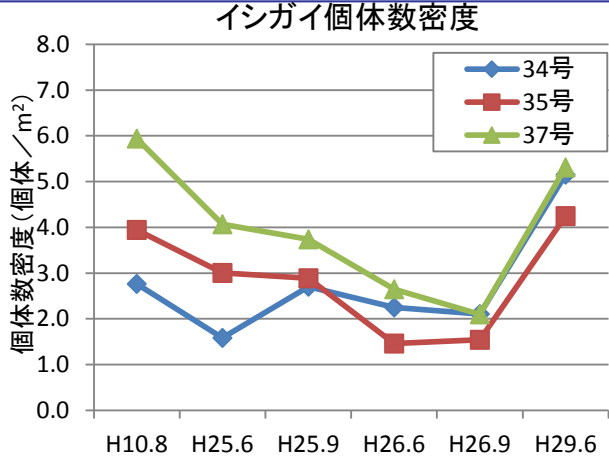
Step	目 標	指 標	達成度	
1-a	再導入した成魚が野生で繁殖すること	再導入した成魚が野生で繁殖した結果、翌春（貝から泳出した）稚魚が出現すること		
1-b	稚魚が成魚まで成長し、生活史を全うすること	第二世代の成魚が確認されること		H26 達成
2	第二世代以降の成魚が毎年繁殖すること	毎年稚魚が出現すること		H27 H28
3	野生の個体群が大きくなること	稚魚の生息数が増加すること		H29
4	淀川の広い範囲にわたって生息水域が再生されること	淀川の広い範囲において十分な数の生息水域が確認されること		

出典：イタセンパラの野生復帰に向けた淀川本川河道の自然再生短中期プラン

○34・35・37号ワンドではイシガイの個体数密度が過年度調査より大きく増加していた

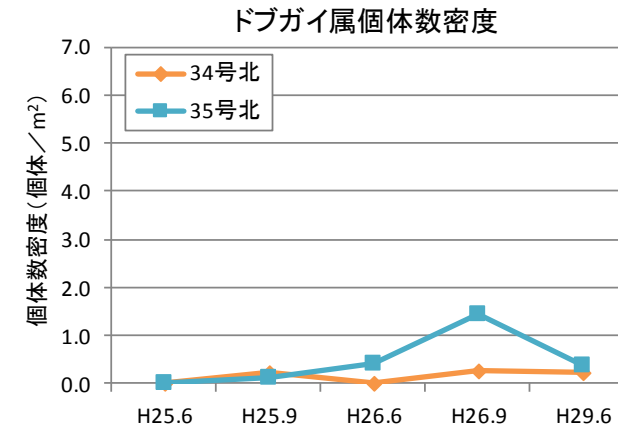
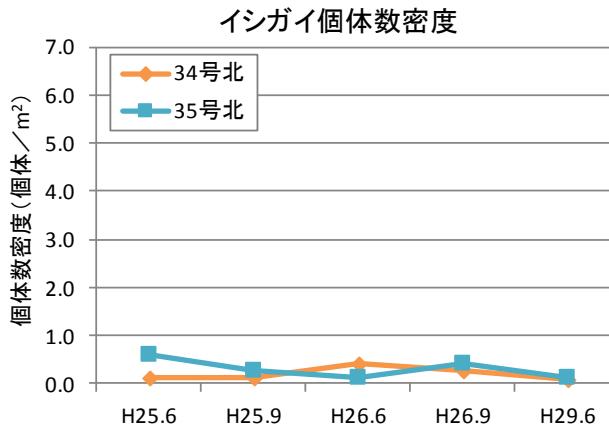
○34号北・35号北ワンドではイシガイは経年的に低い密度で推移している
両ワンドは泥の堆積が過剰であり、砂～砂泥を好むイシガイの生息に適していないと考えられる

34
・
35
・
37
号
ワ
ン
ド



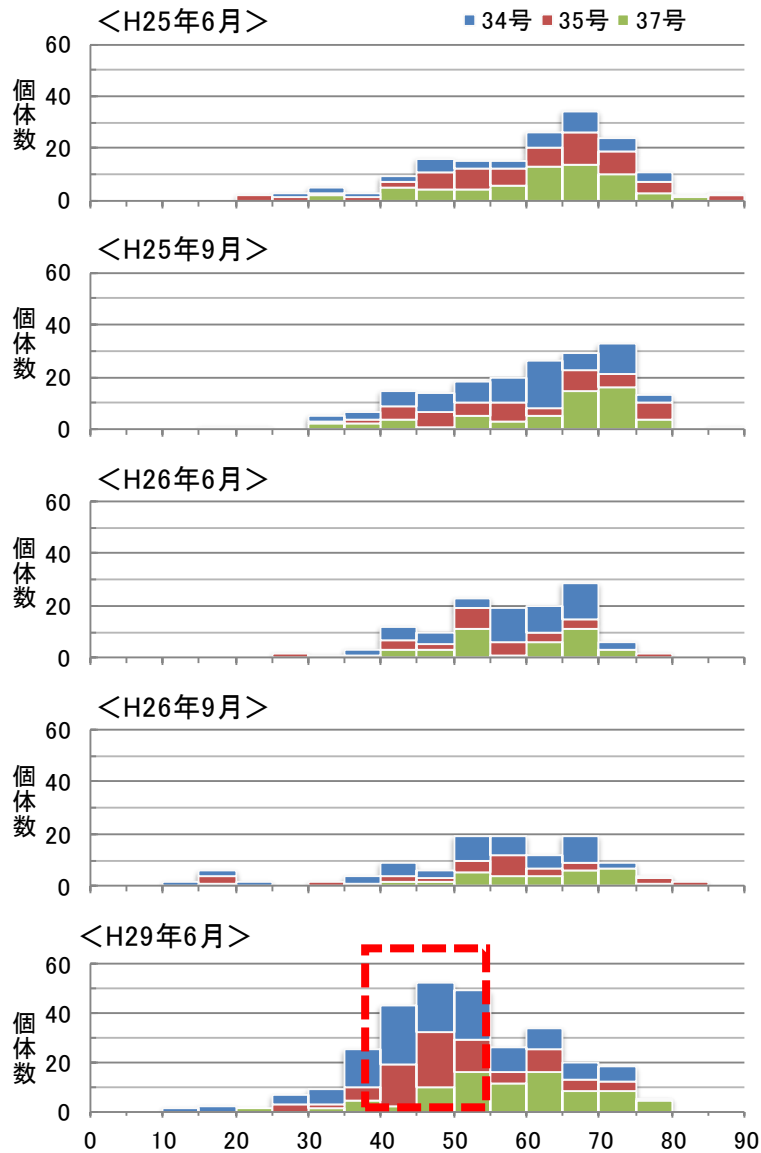
34号ワンド(生貝)

34
北
・
35
北
ワ
ン
ド

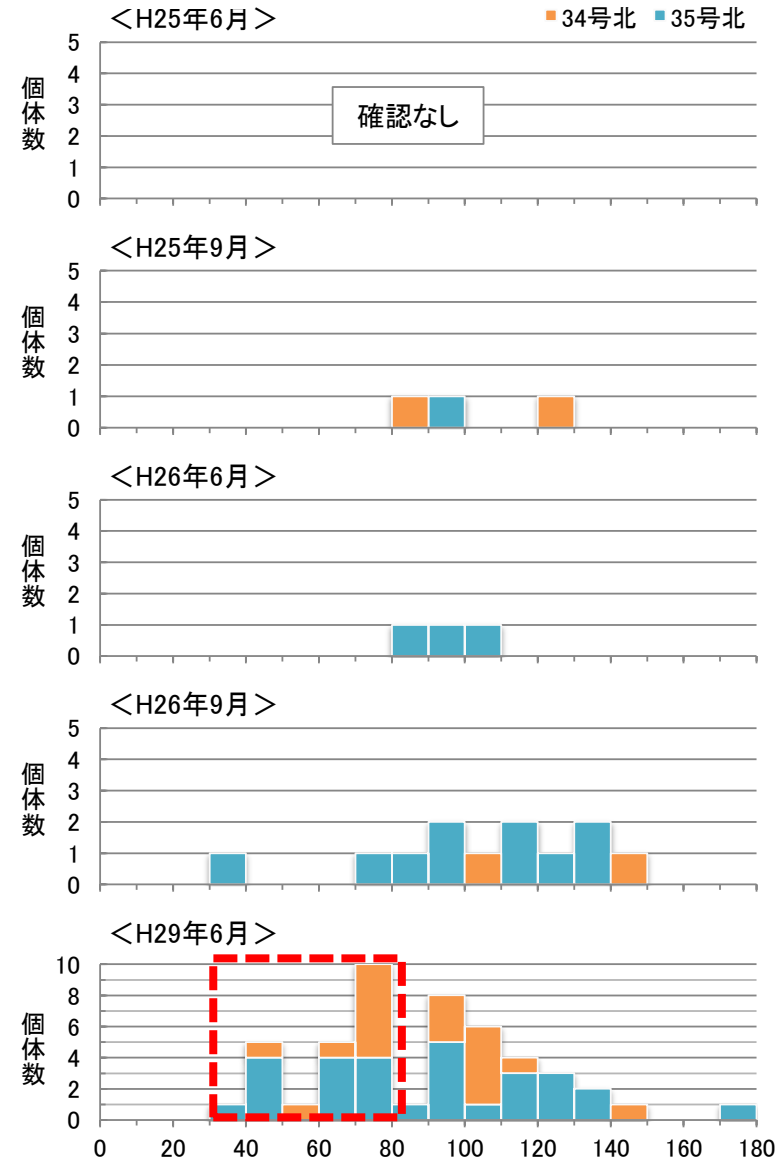


35号北ワンド(生貝)

殻長組成の経年比較



イシガイ(34号・35号)



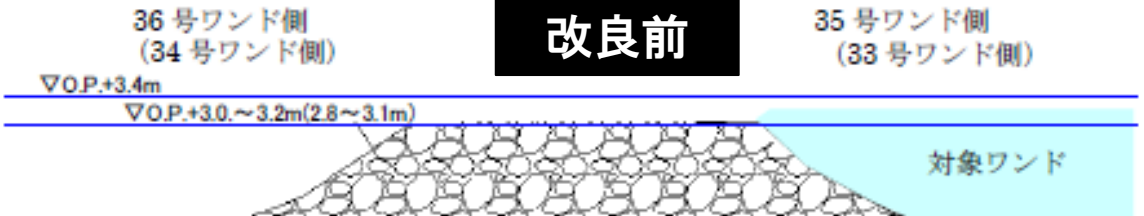
ドブガイ属(34号北・35号北)

水制工の補修(木工沈床)

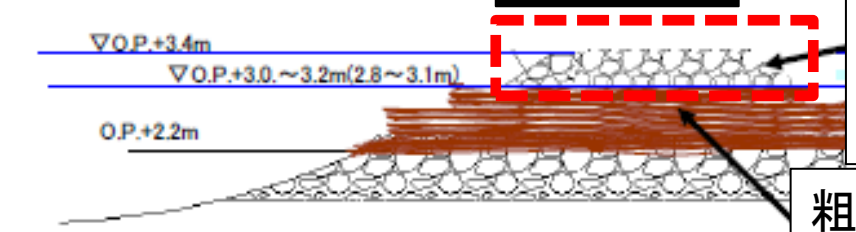
○外来魚の侵入を防ぎながら、水循環を行う構造にすることでイタセンパラの生息環境改善を図った



改良前



改良後



外来魚が侵入しないように天端に径30cm程度の石で嵩上げし、用いて人が歩ける構造とした

粗朶を用いた透水性の良い構造とした



2月22日 河合委員提供



2月22日 河合委員提供



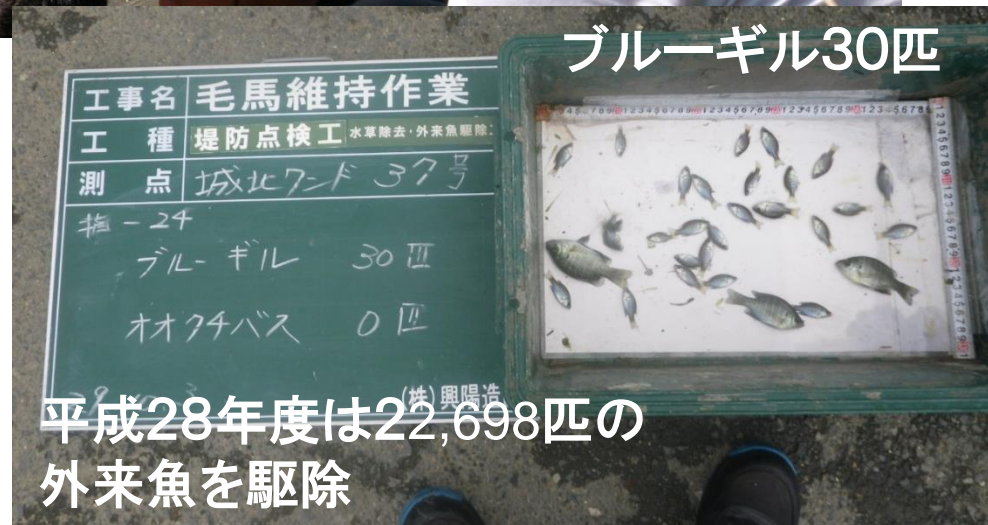
3月3日 淀川河川事務所

外来種の駆除活動の継続

- 「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク（イタセンネット）」などが、**外来魚駆除**を継続実施（4月～11月に月2回活動）



- 維持作業において**外来水草除去及び週2回もんどり**による**外来魚駆除**を継続実施
（5、6、9～11月実施）



新たな課題について(ヌートリアの影響)

- 近年、淀川ではヌートリア(特定外来生物)が淀川全域に生息
- ヌートリアがイタセンパラに与える影響が懸念されている

ヌートリアによる二枚貝の捕食被害



二枚貝の減少



イタセンパラの産卵場所の減少

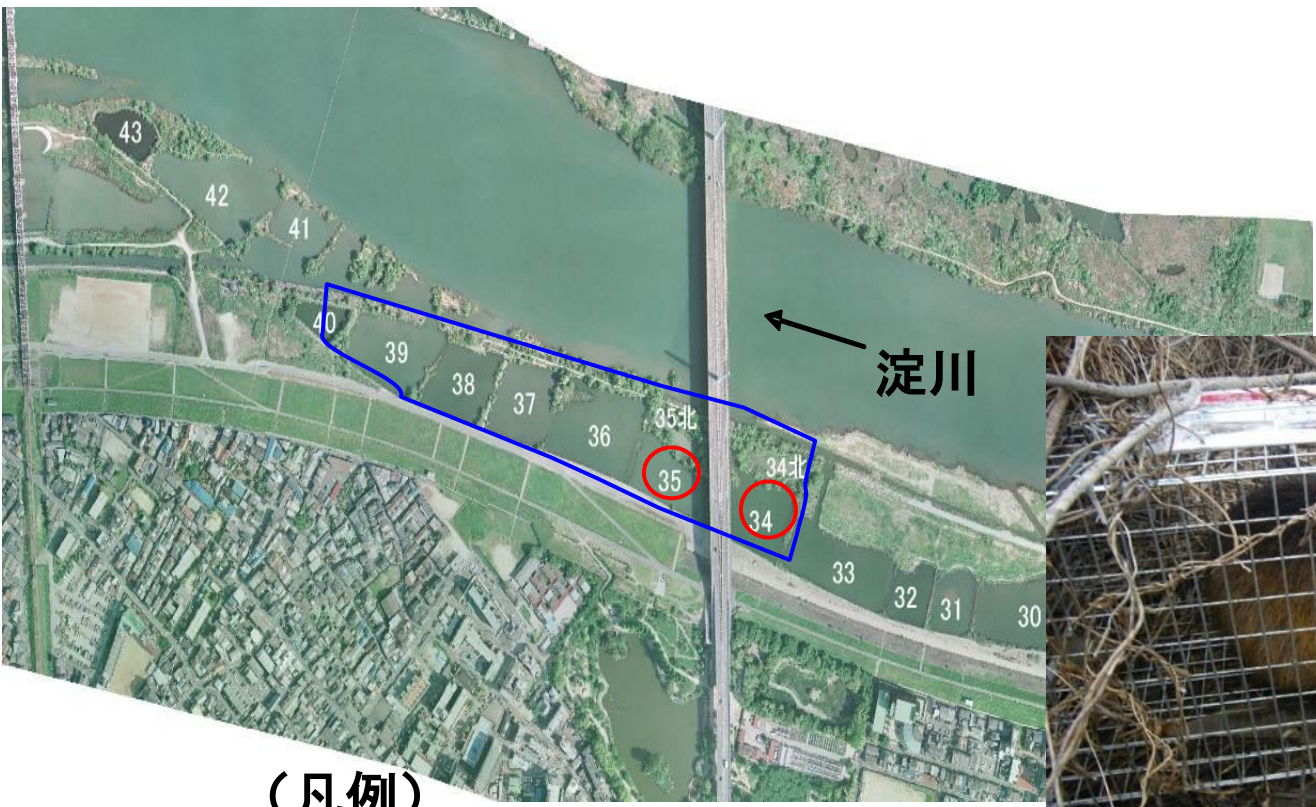


イタセンパラの減少



新たな課題について(ヌートリアの試行的防除)

- 平成29年1月～2月にかけてイタセンパラ保全のためのヌートリア防除を試行
- 城北わんどイタセンパラ協議会が実施主体となり学識者に助言を得ながら実施



(凡例)

- イタセンパラ放流箇所
- 試行的防除範囲

人為的な防除を受けながらも
合計7匹の捕獲に成功

4月以降も試行的防除を継続し、城北ワンドでは合計30匹程度捕獲している

市民等へのPR

○各種お願いの看板を設置し、河川敷を利用している人々へのPRを実施

- ・水制工の石動かさないで
- ・タモ網使用禁止
- ・ヌートリア餌付け禁止



河川事務所の取り組み例

- 水草のヒシの繁茂が確認され除去を実施
- 事務所職員、大工大、水生生物センター等総勢24人で約300kg除去

平成29年8月25日
実施



約300kgを除去

除去前



除去後



残りは維持作業で除去

河川事務所の取り組み例

○平成29年7月15日に31回目を迎える「淀川”わんど”クリーン大作戦」を実施
 ○約250人に参加して頂き、城北ワンドでゴミ拾いをしました。(約200kg回収)

今年も「わんどの歴史や生き物」のお話やります!

10:00～11:00 わんどクリーン大作戦
 11:00～11:30 わんどの歴史や生き物のお話

淀川わんど
 Let's Clean "WANDO" in YodoRiver

クリーン大作戦

参加無料
 助っ人集まれ!

同時開催!!
 イタセンネット主催
「外来魚駆除」
 (11:30～ 外来魚駆除)

淀川の歴史や生き物についてお話やります。
 参加費は無料です。
 雨天の場合は、雨天決行
 淀川河川事務所へお問い合わせください。

開催地: 大阪市旭区 淀川河川敷城北わんど地区
 開催日: 7月15日(土) 10:00～11:30分
 お問い合わせ先:
 淀川河川事務所 河川環境課
 電話 072-843-2861



旭警察署とパトロールを実施



淀川環境委員によるお話



旭区の魚 “イタセンパラ”

- 大阪市旭区において、平成29年1月1日にイタセンパラを「区の魚」に位置づけられました。
- イタセンパラを「区の宝」として、城北ワンド群とともに、旭区の豊かな自然環境の象徴とされていて、啓発活動など実施されています。



旭区のイタセンパラ
マスコットキャラクター
「パラッチ」

河川事務所でもキャラクターを使用させて頂き
グッズを作成し、認知度向上を図っている



- ・イタセンパラが生息・生育できるように、外来魚の駆除や水草の除去・対策を実施
- ・イタセンパラ保全のためのヌートリアの試行的防除を実施
- ・イタセンパラの密漁対策を実施

各種対策を関係機関・地域ネットワークと連携する



これらを継続することで...

イタセンパラが生息しやすい環境が保全される



イタセンパラだけでなく淀川に生息する在来の魚類全般にとっても生息しやすい環境となり、イタセンパラが産卵する二枚貝も再生産され豊富に生息できる

イタセンパラが生息できるワンド環境の維持管理を、行政と市民が一体となって**継続**することで、良好な生物の生息・生育・繁殖環境が保全できることに繋がる。

城北ワンドでは、保全シンボルが天然記念物イタセンパラと明確であり、活動する人々のモチベーションも高く活動が継続されてきた

今年度の取り組みについて

- イタセンパラの遺伝子調査を実施予定
- 再導入後4年連続してイタセンパラの稚魚が確認されているが、個体数が少なく生息地も限定的な種においては、限られた個体の交配より遺伝的多様性が失われている可能性があるため遺伝的多様性を保持しているか確認



ご静聴ありがとうございました

